

実態調査(3): 信越地方

長野県飯田市売木地区の中学校のプール(図 A-1)で飼育したアカガエルの奇形幼生が見つかった([1]
- (A) 参照)。

調査(1): 長野県飯田市売木

採集年月日: 2000年8月6日

採集場所: 長野県飯田市売木小中学校プール

異常部: 背骨及び尾部の屈曲

[考察]

この奇形が遺伝的要因によるものかどうかを究明するため、交配実験を行う目的で飼育を続けている。しかし、交配実験を行うには個体の成熟を待つ必要があり、それには2年を要する。交配実験の結果、その奇形が遺伝的であると結論されれば、奇形誘因物質を同定し、その作用機序を解明する必要がある。奇形幼生の発生要因としてプールの表層塗料が考えられるため、現在、プールの製造会社が水質検査中である。

実態調査(4): 中国地方

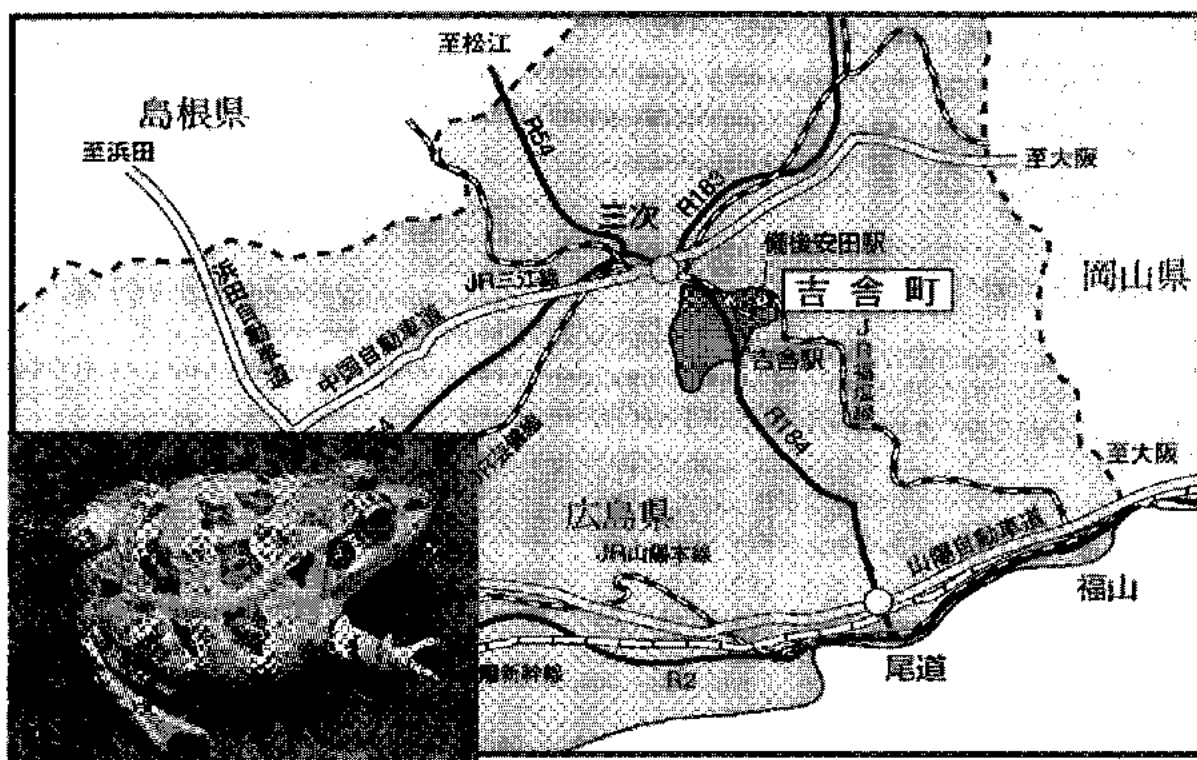
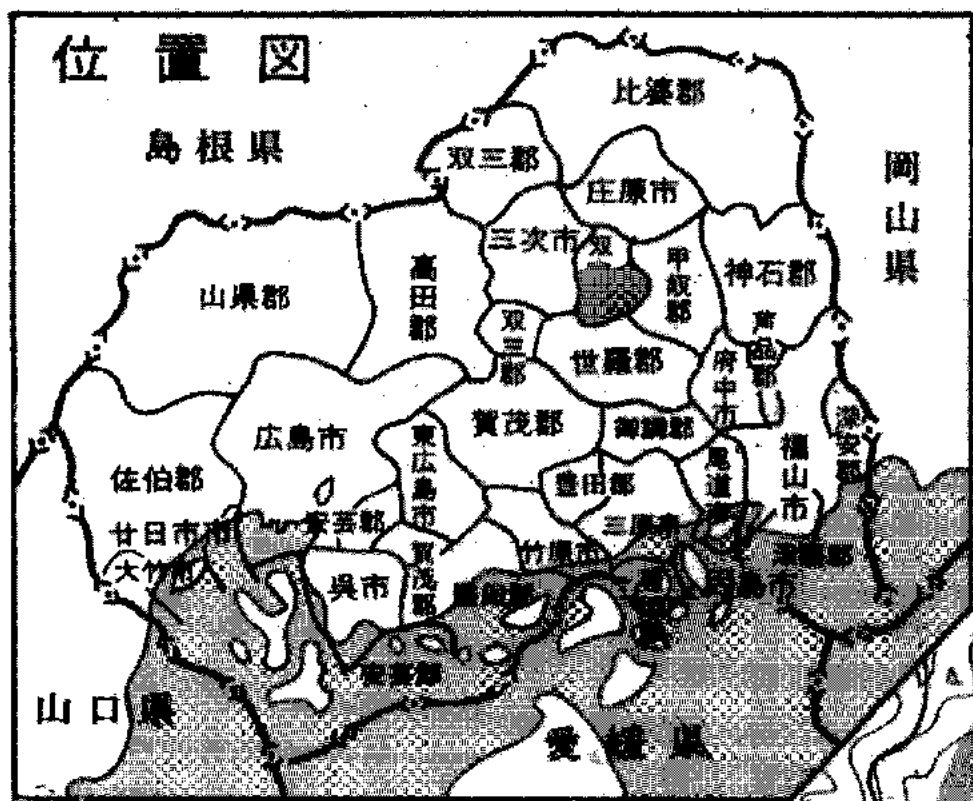
ダルマガエルはトノサマガエルと近縁で、茶褐色から緑色である。しかし、トノサマガエルと異なり、背中線を欠き後肢は短く、体はややずんぐりしている。背面には独立した黒く丸い斑紋がある(図4-1)。このカエルは東海・近畿・瀬戸内海東部沿岸の低湿地や水田、蓮田に生息しており、東京、名古屋、岡山の3地方種族がある。東京、名古屋種族は個体数が著しく減少し、岡山沿岸部のものも生息数は極めて少ない。広島県のは西限でもあり学術的にみても貴重な存在である。かつて、広島県では、福山市周辺(福山市、神辺町、府中市、三原市)で広く生息していたが、市街化のため絶滅したと考えられ、現在、生息が確認できるのは双三郡吉舎町だけである。吉舎町は広島市から北東に向かって90km、四方を山で囲まれた人口6000人の小さな町で(図4-1)、町内には400基もの古墳がある。歴史が古く小さな町であったため、平成3年までは町内安田地区を中心に多くのダルマガエルが生息していた。しかし、平成4年に灰塚ダム建設に伴う周辺諸事業や水田の基盤整備事業が開始され、生息環境が激変したため(図4-2、3)、現在では生息数が極めて少ない絶滅に近い状態だと考えられている。その実態を調査する。

調査(1): 広島県双三郡吉舎町

調査年月日: 2000年11月24日

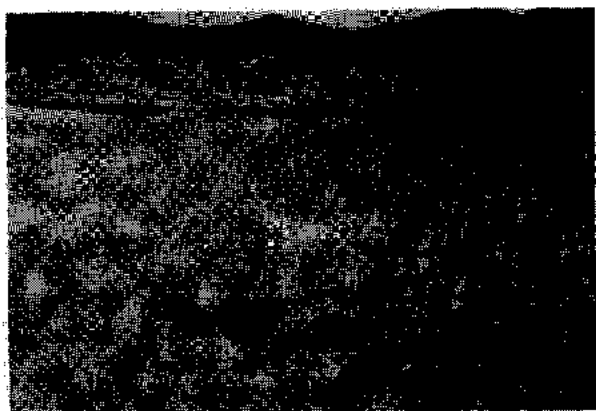
[考察]

吉舎町安田地区の調査では、時期が少し遅かったせいか、ツチガエル亜成体1個体を確認しただけで、ダルマガエルは1個体も確認できなかった。安田地区は平成3年以前は、ダルマガエルの生息に適した水田が多く残っていた(図4-2)。しかし、平成4年、安田地区中山間地域農村活性化総合整備事業が開始され、圃場整備が行われたため、水田の溝はコンクリート化され、周りの土も硬く固められてしまった

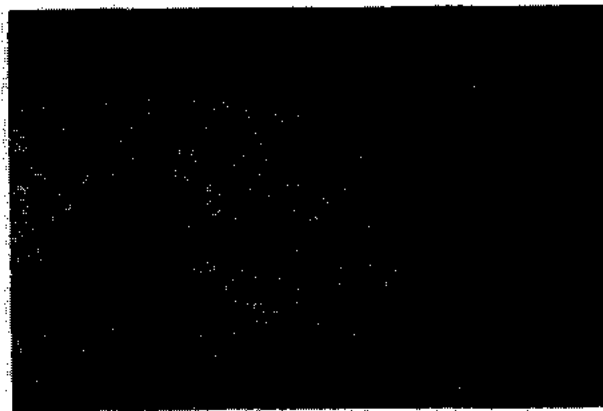


ダルマガエル

図 4-1 広島県双三郡吉舎町の位置



(1)

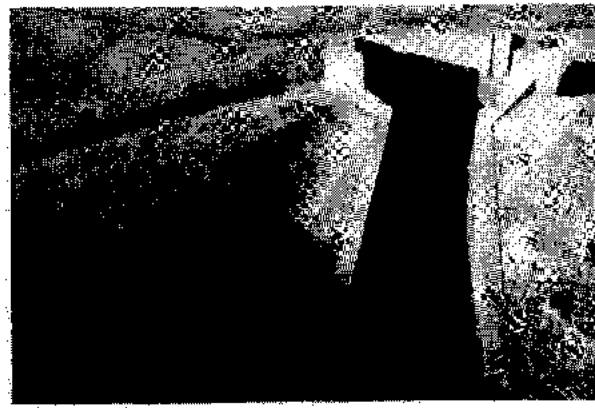


(2)

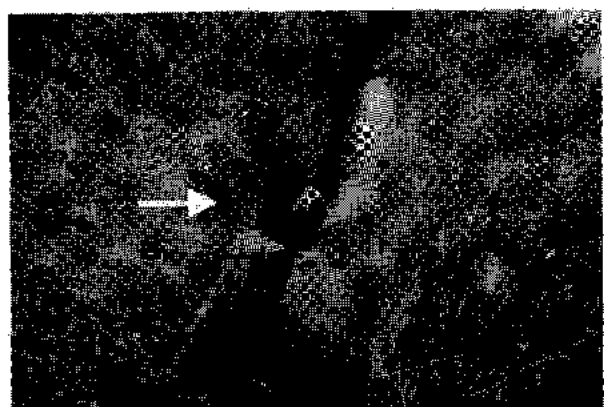
平成3年 整備着工前の田圃



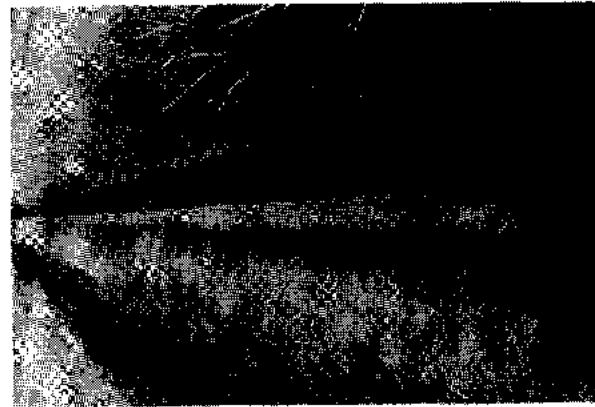
(3)



(4)



(5)



(6)

矢印は脱出スロープを指す

平成12年 整備後の田圃（溝はコンクリート化されている）

図4-2 区画整備前後の吉舎町の水田

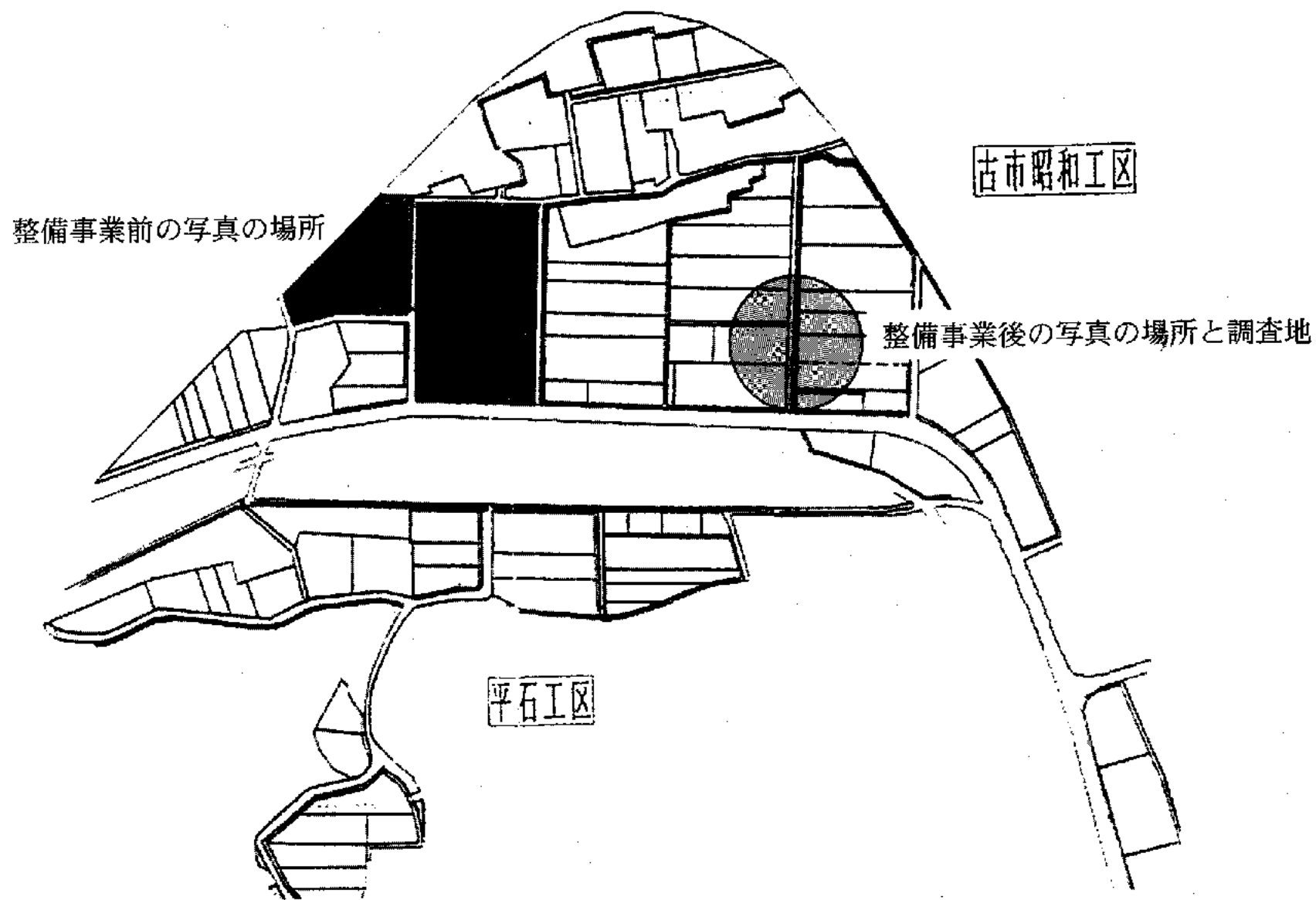


図4-3 平成4年度着工安田地区中山間地域農村活性化総合整備事業平面図